

研究計画書

ゼミ名	森ゼミⅡ	チーム名	乗り捨て委員会。
タイトル	コミュニティサイクル促進計画		
テーマ群	c) 公共経済 e) 産業・企業		
メンバー	才木天斗 加藤志央理 名倉庸介 田辺春雄 林晋之介 坂本佑樹 藤本奈央 森優也 野中俊哉 河内愛		
研究計画内容	<p>2020年の東京オリンピック開催により都内の交通需要は100万人規模で増加すると予想されている。そのため東京は世界標準の自転車インフラを整え、歩行者・自転車・クルマの三者が安全・安心に通行できる都市になる必要がある。そこで私たちが注目したのが「コミュニティサイクル(Community Cycle 以下 CC)」であり、本研究ではそれを東京で導入し、成功を収めるための方法を導き出す。</p> <p>CCとは、一定の地域内に複数配置された専用の駐輪施設であれば好きな場所で自転車を借りて返却を行うことができる自転車共有サービスである。CC導入においての主な目的は公共交通の機能補完であるため、観光地でよく見られるような定点貸出・返却を基本とする、単に回遊性を高めることを目的としたレンタサイクルとは根本的にねらいが異なる。</p> <p>近年、世界中の先進都市が自転車の価値を見直し始め、数々の自転車活用政策を導入する動きが強まっている。地球温暖化、交通事故、医療費増大など現代都市社会が抱える様々な問題を解決する一つ的手段としてCCが注目されているのである。</p> <p>CCを基とした自転車活用政策はヨーロッパを始めとする世界各地で成功を収めたが、その効果は市民や観光客の移動手段として根付くだけにとどまらなかった。それは鉄道とバスを繋ぐ役割を果たすことで自動車交通量を減少させ、交通の混雑、事故、CO2排出量を減らすことにも大きく貢献したのである。さらには自転車整備などの維持に関わる雇用の創出、自転車に乗ることでの健康の増進による医療費の削減にも繋がっている。</p> <p>しかし東京が現状のまま単にCCを導入した場合、それはおそらく失敗に終わるだろう。それ以前の自転車利用環境の整備と、市民の自転車に対する意識改革が必要である。では東京が世界標準のCCを備えた自転車先進都市になるにはどのような課題が残されているのだろうか。東京の自転車利用の現状と交通環境、施策を海外の自転車先進都市の例と比較しながら、その課題および解決方法を導出する。</p>		